

作成日 2020年12月11日

改訂日 2023年12月1日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	TORIOS ヒラタコク CFB(ヒラタコクヌストモドキルアー)
供給者 会社名称	富士フレイバー株式会社
住所	東京都羽村市緑ヶ丘三丁目5番地の8
電話番号	042-555-5186
緊急連絡電話番号	042-555-5186
電子メールアドレス	inquiry-ecomone-jpn@jt.com
推奨用途	モニタリング用資材のルアー

2. 危険有害性の要約

本製品(ルアー)はフィルムに包まれた不織布ディスクに薬液を浸透させている。下記 GHS 分類に関する情報は、ルアー全体ではなく、薬液に関する危険有害性情報である。

化粧箱に記載された注意事項や製品情報シートに従って使用する場合、薬液成分の放出量は微量であり、化学物質へのばく露のリスクは低いと考えられる。

化学品のGHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分2
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分4
	急性毒性(吸入:蒸気)	区分4
	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分2
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分2(呼吸器)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分2(呼吸器)
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分3

上記で記載のない危険有害性は、「分類できない」または「区分に該当しない」。

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語	危険
危険有害性情報	引火性の高い液体及び蒸気 飲み込んだ場合や吸入した場合は有害 皮膚刺激 強い眼刺激

注意書き

呼吸器の障害のおそれ

長期にわたる又は反復ばく露による呼吸器の障害のおそれ

水生生物に有害

【安全対策】

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

容器を密閉しておくこと。

容器を接地しアースをとること。

防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する措置を講ずること。

蒸気を吸入しないこと。

取扱後は手をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。

環境への放出を避けること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。

口をすすぐこと。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

火災の場合：消火するために二酸化炭素、粉末、耐アルコール泡、水噴霧を使用すること。

【保管】

施錠して保管すること。

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

【廃棄】

内容物/容器を国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。

GHS 分類に関係しない又は GHS で扱
られない他の危険有害性 情報なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物
成分及び濃度又は濃度範囲

薬液の成分

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲 (wt%)	CAS番号	化審法番号/安衛法番号
2,6-ジメチル-1-オクタノール※	20-30(代表値 29)	62417-08-7	2-217/既存
プロピオンアルデヒド	10-20	123-38-6	2-486/既存
3-メチルブタノール	1-10	590-86-3	2-494/既存
賦活剤	40-50	非開示	既存/既存

※化管法第一種指定化学物質(15 項参照)

薬液以外のルアーの材料

	CAS番号	化審法番号/安衛法番号
不織布ディスク	25822-09-7 など	6-29 など/既存
ポリエチレンフィルム	9002-88-4	6-1/既存
紙	—	—

4. 応急措置

吸入した場合

新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
気分が悪い時は、医師に連絡する。

皮膚に付着した場合

多量の水と石鹼で洗う。
皮膚刺激または発疹が生じた場合には、医師の診察、手当てを受ける。

眼に入った場合

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯する。
水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。
眼の刺激が続く場合は医師の診断、手当てを受ける。

飲み込んだ場合

口をすすぐ。
意識がない場合、口から何も与えてはならない。
無理に吐かせない。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受ける。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	情報なし
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	適切な訓練を受けた者が救助作業を行う。 救助者は、必要に応じて適切な保護具を着用する。
医師に対する特別な注意事項	症状に応じて対処する。 大量に飲み込んだり吸入した場合は、毒物の専門家に連絡する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	二酸化炭素、粉末、耐アルコール泡、水噴霧など
使ってはならない消火剤	情報なし
火災時の特有の危険有害性	火災や爆発の危険性は低い。 可燃性である。 燃焼により煙や有害なガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。 危険がなければ、火災区域から容器を移動する。移動不可能な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 消火作業は、可能な限り風上から行う。 消火するための放水により、環境に流出しないよう適切な処理をする。
消火を行う者の特別な保護具及び予防措置	燃焼ガスには、一酸化炭素等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、自給式呼吸器を着用し、煙を吸入しないように注意する。 消火作業では、適切な保護具(手袋、ゴーグル、保護衣等)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置	作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や粉じん、ガス等の吸入を避ける。 屋内で大量に飛散した場合は、十分に換気する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。 河川や土壌に直接排出され、環境への影響を起さないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材 二次災害の防止策	飛散したものを集め、密封できる容器に回収する。 すべての着火源を速やかに取除く。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	必要に応じて保護具を着用する。
	局所排気・全体換気	適切な換気を行う。

安全取扱注意事項	<p>使用前に化粧箱に記載された注意事項や製品情報シートを読み理解するまで取り扱わない。</p> <p>眼、皮膚への接触や粉じん、ガス、蒸気等の吸入を避ける。</p> <p>換気の良い場所で使用する。</p> <p>ルアーを直接手で触らない。</p> <p>ルアーの透明なフィルムは破らない。</p> <p>開封後は速やかに使用する。</p> <p>誤って口の中に入れたり、飲み込んだりしないよう注意する。</p> <p>熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざける。</p>				
接触回避 衛生対策	<p>強酸化剤</p> <p>取扱い後は手をよく洗う。</p> <p>この製品を使用するとき、飲食又は喫煙をしない。</p> <p>飲食エリアに入る前に汚染された作業衣を脱ぎ、個人用保護具を外す。</p>				
保管	<p>技術的対策</p> <p>熱、火花、裸火のような着火源から離して保管する。禁煙。</p> <p>換気の良いところで保管する。</p> <p>消防法の規制に従って保管する。</p> <p>混触危険物質</p> <p>強酸化剤</p> <p>保管条件</p> <p>火気発生源との共存や直射日光、高温を避ける。</p> <p>室温にて暗所で保管する。</p> <p>品質劣化する恐れがあるので、冷凍庫で保管しない。</p> <p>飲食物と一緒に保管しない。</p> <p>子供の手の届かないところに置く。</p> <p>安全な容器包装材料</p> <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>推奨材料</td> <td>情報なし</td> </tr> <tr> <td>不適切材料</td> <td>情報なし</td> </tr> </table>	推奨材料	情報なし	不適切材料	情報なし
推奨材料	情報なし				
不適切材料	情報なし				

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定
許容濃度等	
日本産業衛生学会（2022 年版）	未設定
設備対策	作業員のばく露を避けるため、適切な換気を行う。
保護具	
呼吸用保護具	通常の手扱いは着用不要だが、吸入のリスクがあるときは、適切な呼吸用保護具を着用する。
手の保護具	適切な保護手袋を着用する。
眼、顔面の保護具	通常の手扱いは着用不要だが、眼に入るリスクがあるときは、サイドシールド付きの保護メガネやゴーグルを着用する。

皮膚及び身体の保護具

通常取り扱いでは着用不要だが、皮膚に付着するリスクがあるときは、適切な保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	固体
色	白色(ディスク)
臭い	かすかな特異臭
融点／凝固点	情報なし
沸点又は初留点及び沸点範囲	>40°C
可燃性	可燃性
爆発下限界および爆発上限界／可燃限界	非該当
引火点	<21°C(薬液)
自然発火点	情報なし
分解温度	情報なし
pH	非該当
動粘性率	非該当
溶解度	水に不溶(長時間水に浸された場合、ディスクに保持された成分のごく一部が水に溶け出す可能性あり)
n-オクタノール／水分配係数(log 値)	情報なし
蒸気圧	非該当
密度及び／又は相対密度	情報なし
相対ガス密度	非該当
粒子特性	非該当

10. 安定性及び反応性

反応性	通常取り扱いおよび保管条件においては安定である。
化学的安定性	有機溶剤や鉱物油等に侵される可能性がある。 紫外線や熱により劣化する。
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	熱、火花、裸火のような着火源、高温、直射日光
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	燃焼の際は、一酸化炭素、二酸化炭素、炭化水素等が発生する。

11. 有害性情報

本製品(ルアー)はフィルムに包まれた不織布ディスクに薬液を浸透させている。下記の有害性情報は、ルアー全体ではなく、薬液に関する危険有害性情報である。

急性毒性 経口 【薬液の GHS 分類】

	区分4 飲み込むと有害[加算式(薬液中の約 75%の成分の毒性は不明)] 【成分のデータ】 プロピオンアルデヒド LD50 1,410 mg/kg(ラット)(区分4) 3-メチルブタナール LD50 >5,000 mg/kg(ラット)(区分4)
経皮	【薬液の GHS 分類】 分類できない。 【成分のデータ】 プロピオンアルデヒド LD50 >2,000 mg/kg(ウサギ) 3-メチルブタナール LD50 >2,000 mg/kg(ウサギ)
吸入(蒸気)	【薬液の GHS 分類】 区分4 吸入すると有害[加算式(薬液中の約 75%の成分の毒性は不明)] 【成分のデータ】 プロピオンアルデヒド LC50(蒸気) 26,000 ppm/30min(ラット)(4 時間換算値:9,200 ppm) 3-メチルブタナール LC50(蒸気) 57 mg/L/4h(16186 ppmV/4h)
皮膚腐食性/刺激性	【薬液の GHS 分類】 区分2 皮膚刺激(区分2の成分を 10%以上含むため) 【成分のデータ】 プロピオンアルデヒド 皮膚刺激(区分2) 3-メチルブタナール 皮膚刺激(区分2)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	【薬液の GHS 分類】 区分2 強い眼刺激(区分2の成分を 10%以上含むため) 【成分のデータ】 プロピオンアルデヒド 強い眼刺激(区分2) 3-メチルブタナール 強い眼刺激(区分2)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	情報なし

生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	【薬液の GHS 分類】 区分2 呼吸器の障害のおそれ(区分2の成分を 10%以上含むため) 【成分のデータ】 プロピオンアルデヒド 呼吸器の障害のおそれ(区分2) 眠気又はめまいのおそれ(区分3) 3-メチルブタナール 呼吸器への刺激のおそれ(区分2)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	【薬液の GHS 分類】 区分2 長期にわたる、又は反復暴露による呼吸器の障害のおそれ(区分2の成分を 10%以上含むため) 【成分のデータ】 プロピオンアルデヒド 長期にわたる、又は反復暴露による呼吸器の障害のおそれ(区分2)
誤えん有害性	情報なし

12. 環境影響情報

生態毒性 水生環境有害性 短期(急性)	【薬液の GHS 分類】 区分3 [加算法(薬液中の約 75%の成分の有害性は不明)] 【成分のデータ】 プロピオンアルデヒド 魚類 LC50 (96h): 14mg/L(ファットヘッドミノー)(区分3) 3-メチルブタナール 魚類 LC50 (96h): 3.25mg/L(ファットヘッドミノー)(区分2)
水生環境有害性 長期(慢性)	情報なし
残留性・分解性	【製品のデータ】 情報なし 【成分のデータ】 プロピオンアルデヒド 良分解性(28 日での BOD 分解度=94%、TOC 分解度=97%、GC 分解度=100%) 3-メチルブタナール 急速分解性がある(10 日後分解度:99% (OECD TG302B))

生体蓄積性	【製品のデータ】
	情報なし
	【成分のデータ】
	プロピオンアルデヒド
	n-オクタノール/水分配係数 log Pow: 0.59
	3-メチルブタナール
	n-オクタノール/水分配係数 log Pow: 1.23
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	本製品はモントリオール議定書の附属書に列記されている物質を含有していない。
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	国、都道府県、市町村の規則に従って適切な処分を行う。 大量の場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	国、都道府県、市町村の規則に従って適切な処分を行う。 包装材を処分する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国際規制 海上規制情報 航空規制情報 国連番号 海洋汚染物質 MARPOL73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質	規制されない 規制されない 非該当 非該当 非該当
国内規制 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	消防法に従う 運搬に際しては、容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。容器の破損等で漏洩があった時は、側溝、河川あるいは湖沼への流出を防ぐ措置を講ずる。
15. 適用法令	
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化管法)	第一種指定化学物質 アルカノール(炭素数が10のものに限る。) (別名デカノール)、管理番号 257

労働安全衛生法 ※	名称等を表示し、又は通知すべき危険物および有害物 プロピオンアルデヒド
毒物及び劇物取締法	非該当
消防法	第4類引火性液体第一石油類(非水溶性)

※ ルアー全体ではなく、薬液中の含有量に基づいて記載した。

16. その他の情報

参考文献

1. GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS) (JIS Z 7253:2019) 日本規格協会(2019年5月25日発行)
2. GHSに基づく化学品の分類方法(JIS Z 7252:2019)日本規格協会(2019年5月25日発行)
3. 経済産業省 事業者向け GHS 分類ガイダンス(令和元年度改訂版(Ver. 2.0))
4. GHS分類結果データベース (独)製品評価技術基盤機構ホームページ

【記載内容の取り扱い】

本製品安全データシート(SDS)は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、記載の内容は情報提供を主目的とするものであって、保証するものではありません。また、SDS中の注意事項は通常の実施を前提としたものです。製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は用途、使用法に適した安全対策の実施の上、製品を使用してください。また、当社は、SDS記載内容について十分注意を払っていますが、その内容を保証するものではありません。